

風海鳥の撤去スケジュールについて

2026年7月27日



ZERO CARBON
HOKKAIDO
SETANA

せたな風海鳥撤去のための浚渫工事及び撤去工事

洋上風力発電施設「風海鳥」を撤去するに当たって、浚渫工事を実施してから、撤去工事を実施します。なお、浚渫工事、撤去工事及び管理等で合計520,080千円である。

(1) 浚渫工事

- ・洋上風力発電施設の撤去に伴い、起重機船の安全な航路を確保するため、水深が浅い区間を浚渫する。

【施工予定時期】: 令和8(2026)年7月末～令和8(2026)年8月中旬

【工事数量】 : 浚渫量2,421m³

【主要船舶】 : バックハウ浚渫(鋼D2.0m³)・土運船運搬(鋼300m³積)など

【概算工事費】 : 44,660千円

せたな風海鳥撤去のための浚渫工事及び撤去工事

浚渫工事



せたな風海鳥撤去のための浚渫工事及び撤去工事

(2)撤去工事

- ・せたな町が管理している洋上風力発電施設(「風海鳥」1号機、2号機)について、本体及び機器等に不具合が生じ、稼働休止としていることから、施設を撤去する。

【施工予定時期】令和9(2027)年1月～令和9(2027)年8月

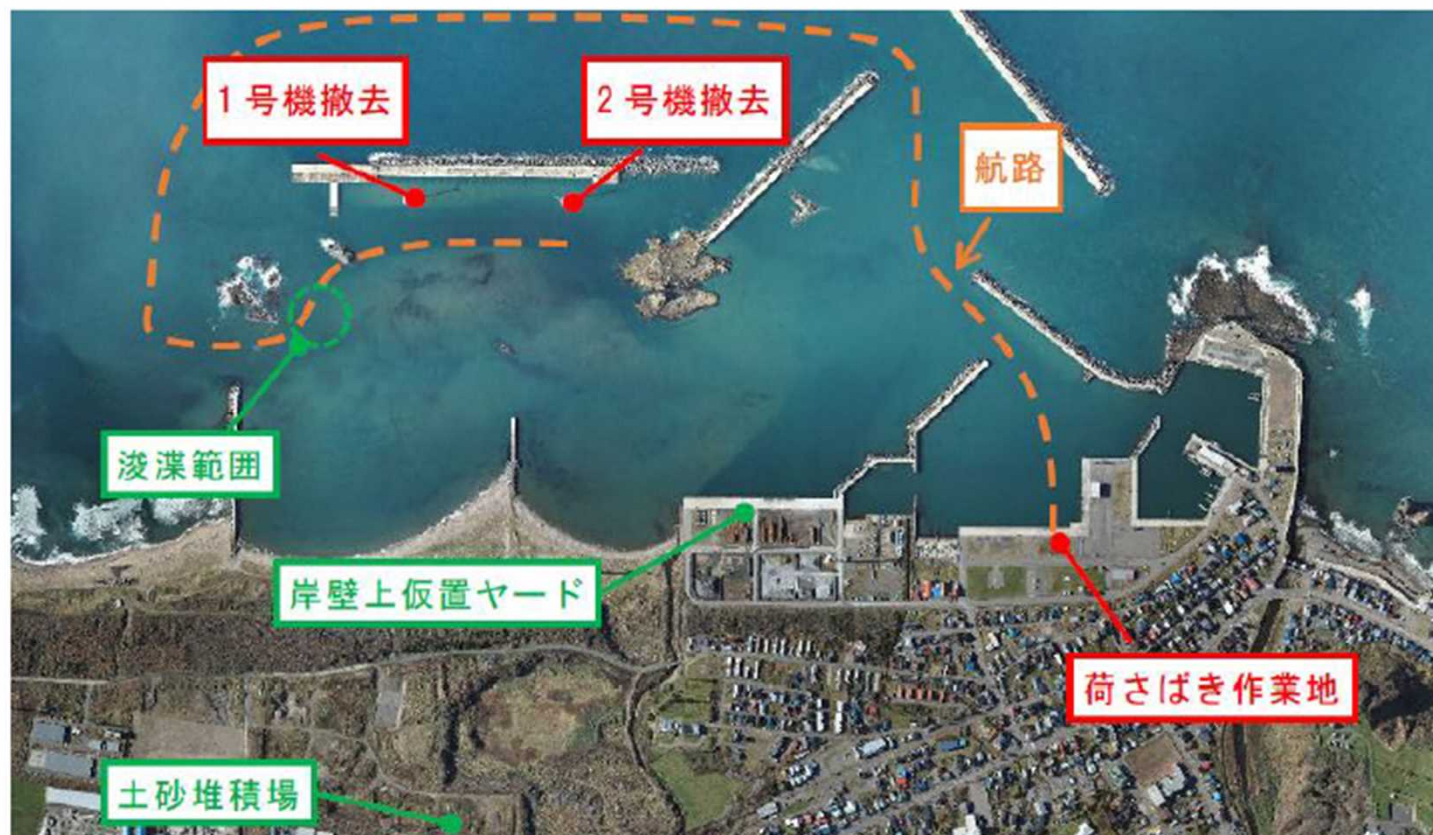
【工事数量】 :風力発電施設「風海鳥」 2基

【主要船舶】 :起重機船(400t吊D)

【概算工事費】 :469,920千円

せたな風海鳥撤去のための浚渫工事及び撤去工事

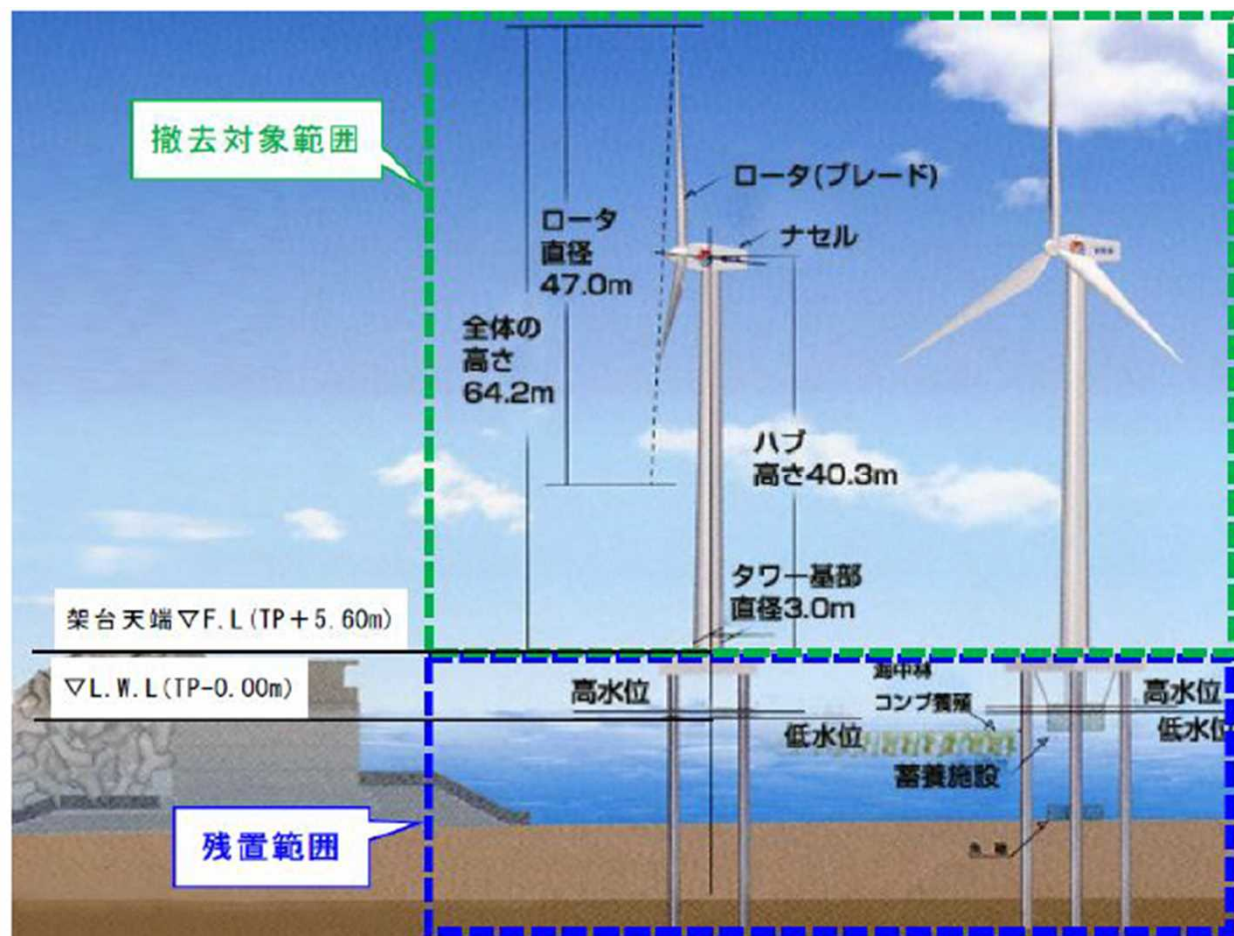
撤去工事



せたな風海鳥撤去のための浚渫工事及び撤去工事

撤去範囲

撤去範囲は、ロータ・ブレード・ナセル・タワー・基礎部・附属品であり、基礎架台及び海底ケーブルは残置する。



せたな風海鳥の有効活用について

・せたな風海鳥の有効活用について

北海道電力にて洋上風力の人材育成に向けた取組が進められている。その中で、風海鳥の有効活用について、協議を進めている。

- 陸上のトレーニング施設として、江差町「まなびっく」の活用を想定し、関係機関と協議を進めています。
- 国内初の洋上風力発電施設であるせたな町「風海鳥」の有効活用についても協議を進めています。
- 国際水産・海洋都市「函館」との親和性から、函館市に海上訓練施設の設置を検討しています。
- 上ノ国町内での一貫した教育体系の創設に向けて、個別各校と協議を進めており、義務教育課程では最早で2026年度から授業を展開できるよう準備を進めています。

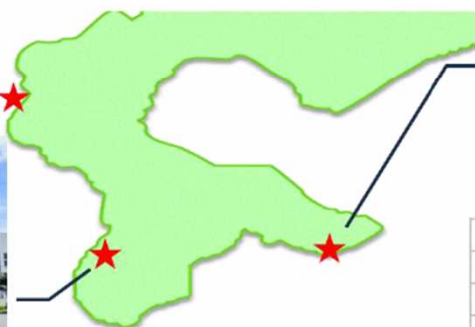


せたな町「風海鳥」



江差町「まなびっく」

竣工	昭和59年（道立江差専修職業訓練校として）
運営	（一社）檜山地域人材開発センター運営協会 （檜山管内建設業団体等で理事を構成）



函館市「大歩」



会社名	株式会社大歩（だいぶ）
住所	函館市港町3丁目5番19号
代表	中村 徹也
業務内容	潜水作業、ドローン事業、教育 各種器材販売・メンテ・エアチャージ
設立	2011年4月
保有資格	潜水士、特定潜水士、港湾潜水技術士 （1級・2級）、土木施工管理技士 （1級・2級）、二等無人航空機操縦士、 水中ドローン安全操縦士 等

せたな風海鳥の有効活用について

- 檜山地域人材開発センター「まなびつく」内にトレーニングセンターを設置することで協議を進めており、計画どおり**2026年度トレセン1期工事着工、2027年度運用開始**を目指しています。
(段階的に整備いたします。)
- **せたな町「風海鳥」**については、除却のスケジュールを見定めつつ、今年度は活用方針を検討したうえで、2期工事以降で活用する考えです。

20260708 朝刊 (総合)

「国内初の洋上風力」 北電の訓練施設に

北海道電力は、2027年度内の撤去が決まっている檜山管内せたな町の洋上風力発電施設「風海鳥」を、同管内江差町に整備予定の洋上風力発電の訓練施設に移設することを決めた。国内初の洋上風力発電施設として知られ、北電はメンテナンスの訓練などで活用するほか、モニュメントにすることも検討している。

風海鳥は、合併前の旧瀬棚町が瀬棚港内に設置し、04年に運転開始した。600型2基の風車で、高さは柱が40m、羽根を入れたと最大64m。せたな町は老朽化や故障を理由に撤去を決めていた。

北電は、27年8月ごろの撤去後、後にはせたな町から取得し、訓練施設敷地内のグラウンドに移設する考え。具体的な活用策は26年度中に固める。

瀬棚港内の洋上風力発電施設「風海鳥」(11月)

せたなから来年にも移設 モニュメント化も検討

方針で、実際のメンテナンスを想定した昇降訓練で使う案が出ていて、2基とも活用するかは未定。町などとは今後、引き渡しの条件や方法などを協議する。

道南地域の洋上風力を巡っては、松前沖・檜山沖が25年度、国が事業費を公募する「促進区域」の指定を受け、新たな整備が見込まれている。北電は、江差町の檜山地域人材開発センター「まなびつく」内に、風力発電のメンテナンスを担う人材を育てる陸上訓練施設を整備する方針だ。27年4月の運用開始を目指している。

北電は、「国内初の洋上風力発電施設が、胎動を始めた北海道の洋上風力産業に貢献する」とは意欲深い。「(広報部)と連携。せたな町も「人材育成の一助になる」とは意欲が高い。(まち)へり推進課」としている。(記者・悠希)

©北海道新聞社



(写真右) 風海鳥全景



(写真右下) グラウンド。せたな町の風海鳥をモニュメントとして展示するほか、昇降訓練(体験)設備として活用できないかなど、2026年度に活用方針を検討。

- ・せたな風海鳥の有効活用について
風海鳥をモニュメントとして展示するほか、昇降訓練(体験)設備として活用できないか検討を進めている。